

市長記者会見記録

日時：2021年2月16日（火）14時00分～15時05分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：川崎市における新型コロナウイルスワクチンの接種体制に関する基本方針について（健康福祉局）

市政一般

<内容>

《川崎市における新型コロナウイルスワクチンの接種体制に関する基本方針について》

【司会】 ただいまから、定例市長記者会見を始めます。本日の議題は、「川崎市における新型コロナウイルスワクチンの接種体制に関する基本方針について」でございます。

初めに、本日の記者会見に御同席いただいております医療関係5団体の皆様を御紹介いたします。

公益社団法人川崎市医師会会長、岡野敏明様でございます。

公益社団法人川崎市病院協会会長、内海通様でございます。

公益社団法人川崎市歯科医師会会長、山内典明様でございます。

一般社団法人川崎市薬剤師会会長、嶋元様でございます。

公益社団法人川崎市看護協会会長、広瀬壽美子様でございます。

本件につきましては、まず市長から説明をした後に、御同席いただいている皆様からお話をいただき、その後に質疑応答とさせていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、市長から説明させていただきます。市長、よろしく願いいたします。

【市長】 よろしく願いいたします。新型コロナウイルス感染症が社会、経済に及ぼす影響は甚大ございまして、感染症の発症を予防し、死亡者や重症者の発生をできる限り減らすため、ワクチンへの期待が日に日に高まっているものと認識しております。

本市におきましては、新型コロナワクチンの接種を本年の最重要な取組として位置づけ、万全を期して接種を実施できるよう、その体制構築に向けて、ここにお集まりの市内医療関係5団体の皆様の御協力を賜りながら、準備を加速させてまいりたいと

考えております。

接種体制に関する基本方針といたしまして、安全かつ確実に、可能な限り速やかに、希望する全ての市民にワクチンを接種できる体制の構築を目指すものでございまして、具体的には、別添「川崎市における新型コロナウイルスワクチンの接種体制に関する基本方針について」により説明をさせていただきたいと存じます。

初めに、「1 集団接種体制の構築」についてでございますが、集団接種は、市が設置する接種会場等において予防接種を実施する方法で、(2)の考え方に記載のとおり、ワクチンによっては特殊な流通・保管、そして、短期間に多くの接種が必要となること、一方で、多数の医療従事者の確保には一定の限界があること、また、高齢者以外の方への接種も踏まえ、それぞれの状況に応じた柔軟な体制が必要となることから、下段の方向性に参りまして、まずは各区1か所程度の接種会場を設置するとともに、職場等における集団接種も実施できるよう、体制の構築を進めてまいります。

(3)でございますように、集団接種会場は各区の市民館に設置しまして、右側(4)の運営(案)につきましては、週5日8時間の開設を、医療機関、そして関係団体の御協力に加え、民間委託や会計年度任用職員の活用などにより行ってまいりたいと考えております。なお、会計年度任用職員につきましては、新型コロナウイルスの影響により離職された市民を中心に雇用を検討してまいります。

次に、「2 個別接種体制の構築」についてでございますが、個別接種は、市内の協力医療機関において予防接種を実施する方法で、(2)の考え方に記載のとおり、ファイザー社のワクチンは超低温の保管等を要するため、保管可能な施設が限定的であること、保管を行わない施設でも接種を可能とするためには、ワクチンの小分けや適正な移送体制の構築が必要なこと、また、円滑な個別接種の実施に向けては、協力医療機関の体制整備等の支援が必要となることから、下段の方向性に参りまして、医療機関の接種体制やワクチンの移送体制を構築することで、市内600以上の協力医療機関による個別接種が実施できるよう、体制の構築を進めてまいります。

最後に、「3 巡回接種体制の構築」についてでございますが、巡回接種は、高齢者が入所・居所する社会福祉施設等を巡回して予防接種を実施する方法でございまして、施設等に入所する高齢者におきましては、集団接種や個別接種による対応が困難な状況が想定されること、施設等においてワクチン接種を実施するためには、嘱託医やかかりつけ医等の協力が不可欠であること、また、業務の特性を踏まえ、高齢者施設等の従事者に対して優先的に接種できる体制の構築が必要であることから、下段の方向性に参りまして、嘱託医の協力による巡回接種を実施するとともに、従事者の優先接

種体制につきましても構築を進めてまいります。

市内の医療機関・関係団体の皆様と一丸となって、安全・確実・速やかな接種体制を構築し、市民の生活と命を全力で守ってまいりたいと存じます。

私からの説明は以上です。

【司会】 続きまして、御同席いただいている皆様からお話をいただきたいと思いません。

初めに、公益社団法人川崎市医師会会長、岡野敏明様、よろしくお願いたします。

【岡野会長】 着座にて失礼いたします。川崎市医師会の岡野でございます。どうぞよろしくお願いたします。我々医師会としましては、会員への周知、協力の啓発、そして研修をしっかりと行った上で、我々が何ができて何はできないのか、そして、全体の把握、情報の共有をした上でミッションを遂行していきたいと思えます。

まず、我々として大きく3つのノルマが課せられていると考えております。1つは、集団接種会場における医師の予診の業務、予診、問診、この業務を担うこと、そして、集団接種場においては、可能な限り、診療所の先生たちであれば、診療所の看護師さん等、要するに、気の通じたスタッフ等を連れていって、1つのペアとして看護師業務と医師の業務、これを遂行していければと考えております。

次に、診療所における住民への個別接種の実施でございます。これは、我々には、こういった形で保管しなければいけないとか、人数に対してしっかりとした予約を取らなければいけないとか、幾つかの課題がございますけれども、この辺をしっかりと情報を収集した上で、これを遂行していければと考えております。

続きまして、今度は在宅療養の方並びに高齢施設等への入居者等の方への巡回接種でございます。これも、各高齢者の療養施設におきましては嘱託の先生等もいらっしゃいますので、その辺とまた上手に連携を取りながら、こういう方たちへの接種を行っていききたいと考えております。

最後に、診療所における市民への啓発、広報の協力を会員の先生たちにもお願していくつもりでございます。正しい情報を分かりやすく市民のために説明をし、そして、必要以上に怖がることなく、希望する方たちにワクチン接種ができるような情報提供に努めていきたいと考えております。

以上です。

【司会】 ありがとうございます。

続きまして、公益社団法人川崎市病院協会会長、内海通様、よろしくお願いたします。

【内海会長】 病院協会の内海でございます。よろしくお願いいたします。高齢者や持病を持った方に関しましては、かかりつけなどの医療機関における個別の接種や高齢者施設などへ出向いての接種、それ以外の健康な方、若い方に関しましては、市民会館など接種会場での接種や、あるいは各職場での集団接種が想定されています。いずれのパターンにおきましても、安全・確実、また迅速でスムーズなワクチン接種が行えるよう、各病院での接種はもちろんのこと、ワクチンの保管や管理、また、医師、看護師等の接種場所への派遣等について、極力協力できるように努力していきたいと思っております。

また、今、最初に来ているワクチン、ファイザー、ビオンテックのワクチンは、3週間間隔で2回の接種が必要でございます。特に2回目の接種は期間が限定されますので、誰にいつ接種するのかということ間違いなく遂行していくためには、特に上手にマネジメントすることが必要であると思われまます。病院協会としては、各病院それぞれに、このワクチン接種に協力できるよう周知していく所存でございます。よろしくお願いいたします。

以上です。

【司会】 ありがとうございます。

続きまして、公益社団法人川崎市歯科医師会会長、山内典明様、よろしくお願いいたします。

【山内会長】 御紹介いただきました山内でございます。残念ながら、歯科医師、歯科衛生士が今回のワクチン接種業務に直接携わるということではありませんが、乳幼児の歯科健診をはじめとする各種健診事業の際に、また、引き続き新型コロナウイルスの感染症の予防などについて市民への啓発に努めるとともに、それぞれの歯科診療所において、市のワクチン事業の啓発と広報に協力してまいりたいと思っております。

それと、もう1点は、人体への主要な感染経路の一つであります口腔、これについて、口腔ケアの重要性についても併せて啓発、広報してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【司会】 ありがとうございます。

続きまして、一般社団法人川崎市薬剤師会会長、嶋元様、よろしくお願いいたします。

【嶋会長】 よろしく申し上げます。薬剤師会の嶋でございます。我々薬剤師の役割といたしましては、薬の専門家として、しっかりと研修を行った上で、集団接種会場での薬液充填業務の協力を行っていきたくて考えております。また、それととも

に、各薬局において市民への啓発、広報の協力、正しい情報をしっかりと市民の方々に伝えるという役割も持っていると考えております。どうかよろしく願いいたします。

【司会】 ありがとうございます。

続きまして、公益社団法人川崎市看護協会会長、広瀬壽美子様、よろしく願いいたします。

【広瀬会長】 看護協会会長の広瀬でございます。看護協会からは幾つか、集団接種会場における看護師のワクチン接種業務の協力をしてまいりたいと思っています。それと、看護師の活動の場は、病院や施設などのほか、訪問看護ステーション等でも活動しています。訪問看護ステーションなどでの市民への普及啓発活動をしていきたいと思っています。そうした方々に正しい情報が伝わるように、協会としても協力してまいりたいと思っています。

あと1点は、訪問看護ステーションは、かかりつけの先生から指示書をもって、看護師が訪問しているものです。先ほど、岡野先生のお話もありましたが、在宅療養されている方々への接種については、課題を一緒に共有させていただきまして、どういった形がいいのかを検討させていただきながら協力してまいりたいと思っています。

以上でございます。

【司会】 ありがとうございます。それでは、本議題についての質疑応答に入ります。なお、市政一般に関する質疑につきましては、本件終了後、改めてお受けいたします。それでは、進行につきまして、幹事社様、よろしく願いいたします。

【朝日(幹事社)】 朝日新聞です。よろしく願いいたします。各団体の会長の方に、それぞれお伺いしたいんですが、先々、流動的な部分がまだ多いと思うんですけれども、実施に当たって、それぞれのお立場で、今、一番懸念をしていることとか、心配していることとか、課題と思われることがあれば、ちょっとお話がダブるかもしれませんが、それぞれお伺いできればと思います。

【岡野会長】 川崎市医師会の岡野でございます。最初に答えさせていただきます。

まず、情報が錯綜しているというのは、もちろん御存じのように、1バイアル当たりの取れる人数、これが6人であったり5人に変わったり、これがまず1つございます。それから、どのシリンジを使えば無駄なく打てるのか、これも正確な情報が伝わり次第、我々はしっかりと周知をしていきたいと思っておりますけれども、もう一つは、やっぱり予約の管理と、余った場合、要するに、患者さんの場合は、今日、ちょっと体調が悪いので5人で予約をしていたけれども2人分キャンセルが出てしまったとか、

こういった場合に、貴重なワクチンですので、これをどういうふうに回していくか。無駄なく打つためには、開業医の場合には、いつでも来れるような患者さんたちのストックリストを作っておくとか、そういったことなんかもやってはどうかという意見もございます。いずれにせよ、ワクチンの量、それから、五進法でしか予約が取れないということが我々の一番ネック、そして、最終的に副作用情報、この辺をどういうふうに患者さん等へ説明していくか、この辺が課題であるとは認識しています。

【朝日（幹事社）】 ありがとうございます。

【内海会長】 病院協会でございます。今のところ、各病院で低温保管ができる病院がどのくらいあるのか、できるのか、できないのか、あるいは、どのくらいの接種ができると考えられるのか、そういうことが神奈川県からいろいろ質問が来てまして、今、それを取りまとめているところではないかと思えます。いずれにしましても、まだ具体的にどのくらいの数のワクチンをどこでどう接種していくということはこれから決めていくところでもあります。ですから、まだ細かいことはお話しできる知識が私もないんですけども、先ほど私が申しましたように、特に心配といいますか、注意すべきことは、1回接種であれば、1回片っ端からというか、していけばそれでいいんですけども、それを2回目となりますと、正確にそれぞれの方がどのワクチン、今のところ、1種類ですけども、ワクチンをいつ打ったのかということのを正確に把握した上で、1回目から3週間というところに遅滞なく、また早過ぎなく接種していかなきゃいけないなんていうところが、ただ、普通に接種するだけでも、たくさんの人をしていくのは大変なことなんです、そういうちょっと難しいところがあるのかなというところがちょっと懸念されるかなと。今のところはそのくらいのところでございます。

【山内会長】 歯科医師会といたしましては、先ほどお話ししましたように、今回のワクチン接種事業について直接的な関与ということにはできないわけなんです、今後、協力方の依頼がありますれば、様々検討させていただきたいと思っております。

【嶋会長】 薬剤師会の嶋でございます。薬剤師会の役割としては、先ほどお話しいたしました薬液充填業務がございます。ただ、情報がまだ少ない、どのくらいの方々が集団接種会場で打たれるのか、その辺の数もまだ分からないということもありますので、これからいろいろと情報が出てきましたら、行政とも相談の上、どのくらいの人数を派遣したらいいのか。接種会場では、薬剤師が1人つく形で行いたいと思っておりますので、その辺のところはこれからしっかりと行政と話を進めていきたいと考えております。

【広瀬会長】 看護協会です。集団接種会場における協力体制というところで、人員をどうやって、会員の協力してくれる人をどういうふうに把握していくかなというところを今検討しているところです。それと、先ほどの在宅の方に関しては、訪問看護ステーションのナースたちがどんな役割を負っていくのかというようなことがまだ具体にはなっていませんので、そういったことをこれから詰めていくというか、共有を図っていかなきゃいけないかと思っています。

以上です。

【時事（幹事社）】 幹事社の時事通信です。市長にお伺いします。この3つの方式を併用される狙いと利点、集団は4月からということですので、ほかの2つはいつ頃から接種を始められるのか、あと、市民の何割が、それぞれ該当するのかについて教えてください。

【市長】 まず、3つの方法でやっていくということでもありますけれども、集団、私たち訓練を行いましたけれども、地域特性といいますか、都市部において全て集団接種で行っていくというのは、接種回数もある意味稼げないということと、そして、これだけ診療所の医師会の皆さんの拠点が、インフルエンザのワクチンを既に打っていただいている、そういう実績のある医療機関が670施設、診療機関がございます。その方々に御協力をいただくことで、より身近で迅速に対応できるのかなと思っています。

巡回接種については、集団接種場にも行けないし診療所にも行くことができないという場合には、巡回接種という方法しかございませんので、その辺りをしっかりやっていかなくちゃいけないな、その3つを組み合わせしていく。それから、今後のことでありますけれども、職場での接種ということだとか、あるいは学校での接種だとかという、それぞれの機関に応じた接種方法を今後、いろんなものを組み合わせたいと効果的にはいかないのかと思っていまして、まずは3つの方法でしっかりやっていくということでございます。

【時事（幹事社）】 あと、それぞれ何割ぐらいの方が集団接種を受けることになるのか、個別接種は何割なのか。

【市長】 明確な割合はまだ算出できてはいないんですが、いずれにしても、まずは7会場で集団接種を始めます。今後、準備が整って、ある意味、集団接種も必要だということであれば、順次拡大する可能性は残しています。一方で、先ほど申し上げた600以上の診療所の方々に対しても、一気にそれが600に行くということは考えられませんので、徐々に御理解と御協力をいただく体制をつくっていきます。ですか

ら、診療所の個別接種の体制がどれだけ進んでいくかによって、ワクチンの接種率も変化していく。体制を整えば整うほど指数関数的に増えていくという、そういう形になっていくかと思っています。いずれにしても、16歳以上の方というくくりでいきますと、川崎市、132万人いらっしゃいますので、ものすごいことになるなと思っていますが、今日お集まりの医療関係団体の皆さんとしっかりと協力してやってまいりたいと思っています。

【時事（幹事社）】 600以上の医療機関の協力を目標と書かれていますけれども、そのめどは、そういうことについては立っているということによろしいのでしょうか。

【市長】 600立っているというわけではなくて、670という機関が今までインフルエンザの接種という接種業務をやっている実績があるので、そういった意味では、診療所、先ほどからお話が出ているように、非常に取扱いが難しいワクチンでもございます。ですから、小分けにどうやって搬送体制を確立するかということによっても大きく変動してくる、そういったサポートをしっかりとっていくことによって、御協力いただける診療機関も増えていくんじゃないかな。そこに行政としてはしっかりとサポートしていきたいと思います。

【時事（幹事社）】 幹事社から以上です。

【東京】 東京新聞ですけれども、今回の接種、3つの方法をそれぞれ役割で分けるということなんですけれども、集団接種と個別接種の方は何となく、患者さんが、対象が重複するような感じもあるんですけれども、その2つについてはもう少し、こういう方を対象、こういう方を対象というようなイメージがあったら教えていただけますでしょうか。

【市長】 現時点で、この方は集団接種というふうに、こちらから、あなたは集団接種という形ではなく、予約という形になっていくと想定しております。先ほども、予約のシステムをどうしていくのかというのは、まだ確立されていないということなので、アプリになるということは聞いていますが、その辺りの情報はこれからもしっかりとつかんで、接種される方にとって使いやすい形にしていきたいと思っています。

事務局から補足ありますか。ーなし。

【日経】 日経新聞ですけれども、職場での接種ということですが、具体的に、例えば、市役所の職員であるとか、あるいは臨海部の工場であるとか、その辺の話というのは進んでいる部分はあるのでしょうか。

【市長】 現時点では、具体的に進んでいるというのはございません。ただ、平日の時間帯というのが、果たしてどこまで集体会場あるいは診療所に通えて、速やかに接種

できるような体制になるのかといったら、やはり職場での接種も今後考えていかざるを得ないのではないかと考えております。具体的なものにはなっていません。

【神奈川】 神奈川新聞ですけれども、3種類、いろんなスタイルで接種するという事で、対象が百三十何万人ということですが、全部を統括する情報、誰が打ったかというのを、個別、集団というので打ったかという管理はどういうふうにするんでしょうか。

【市長】 一番アップデートされている事務方からでもよろしいですか。

【健康福祉局】 感染症対策課でございます。接種の情報につきましては、最終的には市町村向けの予診票情報が来まして、予防接種台帳システムの中で管理していくような形になっております。現在、併せて国も新しいデータベースの部分の動きがございますので、そういったところも踏まえながら必要な対応を図っていきたくて思っておりますけれども、市で最終的には台帳システムで接種情報を管理すると、そういう状況でございます。

以上です。

【神奈川】 すみません、追加で。台帳システムというのは、今回、コロナウイルスワクチン用ということではなくて、新しくそういうものができるということなんですか。

【健康福祉局】 感染症対策課です。定期予防接種につきましては、予防接種台帳を備えることになっておりますけれども、今回のコロナウイルスワクチンにつきましても、そこで追加で管理ができるような、そういう改修を行っている状況でございます。同様にその中で管理していく、そういう想定でございます。

以上です。

【神奈川】 ありがとうございます。

【NHK】 NHKです。市長にお伺いしたいんですが、先日、訓練をされて、報告書を先週の金曜日に発表されておりますけれども、予診票の記入のところですか、削除ができればということも書いてあったと思うんですけれども、この辺り、現時点で、あの訓練を受けて改善すべき点というのは、何かお考えありますでしょうか。

【市長】 訓練全般にわたっての改善点ですか。

【NHK】 予診票を事前に送付するとか、何かあの訓練を受けて変更しようと思われていることがあれば教えていただけますか。

【市長】 変更しようと思っている、変更というか、改善できる点、工夫できる点といえば、例えば、相談のところを、一般的な相談というのは別な形ですることによっ

でスムーズに流れるようになるのかというのは、改善点としてあると思っています。もろもろ細かいところの運用としてはいろいろあると思いますが、前回の訓練から言われているというのは、そういったところだと思っています。

予診票の話は、当然一緒に送るという形になってくると思うんですが、聞くところによると、ワクチンの種類によって予診票は変わってくるということも聞いていますので、そういったところが統一されてくると、より混乱なくできるのかなと思っています。それは、国のお決めになることですから何とも言い難い部分はあるんですけど、そういったいろんなレギュレーションがあるんでしょうけども、現場からすれば、なるべく混乱を招くことがないようなものにしてほしいというのはあります。

【NHK】 あと、もう1件、ごめんなさい。今日頂いた資料で、「個別接種が拡充されていった段階で、集団接種の会場を縮小、廃止」という表現があるんですけども、この辺りのお考えというか、集団接種については一時的な、応急的に置くものというお考えということでしょうか。

【市長】 まずは、集団接種の役割というのが多いと思います。やっぱり数をこなしていくという意味では、個別接種というのが最も効果的だとは思っています。そういった意味では限られた、今申し上げているのは、土日のいずれかと平日4日というふうな、それも時間は18時までということになっていますので、そういった制約がよりないほうがいいとは思っていますので。かつ、先ほど申し上げたような、職場での接種だとか学校での接種だとか、いろんなことが整っていけば、いずれの話でありますけれども、集団接種は縮小していく段階にもなっていくのかもしれないということの考え方です。

【朝日（幹事社）】 今の本命は個別の接種という印象なんですが、それでよろしいでしょうか。

【市長】 いや、ベストミックスを目指していくという表現が正しいのかもしれないですね。ですから、集団と個別、それから、対応できるのであれば職場とか学校という形で、それはもう本当に医療従事者プラスアルファの人員の確保と場の確保とワクチンの供給量という全てのバランスを整えていく作業なので、そういった意味では、どちらが好ましいとかではなくて、最も効果的にできる方法、ベストミックスを探していくという考え方です。

【朝日（幹事社）】 いつ頃、個別の接種を開始できるかとか、そういうめどはございますか。

【市長】 なるべく早くとは思っておりますが、やはりそれなりの研修とかというこ

とも必要でしょうし、診療機関もそうですが、携わっていただく従事者の皆さん全てが適切な情報を共有して準備をしなければならない。スピード感というのも大事なんですが、何よりも安全に確実にということが担保できませんと困りますので、そこはしっかりやった上で接種事業をやっていきたいと思っています。

【東京】 東京新聞ですけれども、そうすると、4月、最初に集団接種からスタートするとして、当面、7つの市民館などで接種をするとすると、大体1日でどのぐらいの方が接種できるめどになるのか伺えますでしょうか。

【市長】 前回の訓練でいきますと、標準的なスペックでいくと、8時間やって240人ぐらいということだったんですが、先ほど申し上げた改善などを加えていくと、大体1日300件はこなすことが可能ではないかと試算を現時点ではしています。そういう意味では、300掛ける7という形になるわけですが、これがどれぐらい拡充していけるかというのは、慣れと、あるいはスタッフ、どれだけ医療従事者を確保できるかということに直結してくると考えています。

【東京】 そうすると、例えば、当面、1日2,100件ぐらいとして、個別接種の体制の構築と、あるいは集団接種会場を増やす考え方もできるのかと思うんですが、その辺りも含めて、慣れというか、運用していく中で御検討されることになるのでしょうか。

【市長】 何を検討するんですか。

【東京】 すみません、集団接種会場を逆に増やすみたいな形でも、搬送の問題とかを考えると、実は難しくないのかなという印象を持ったんですが。

【市長】 集団接種会場というのは、今後も増やす可能性としてはあります。それこそ人員だとかが確保できるということであればですね。ですから、医師会の先生方、あるいは病院協会に加盟の先生方というので、集団接種会場にもお手伝いできるよと言っただけの方もいらっしゃいます。それから、民間で委託する部分もありますし、そういったところをかなり、いろんなものを組合せでやっていかないと、なかなか医療人材の確保が難しいのが現状です。そういった手当てがつけば、集団会場も増やしていくことにも当然なってくると思います。

【NHK】 NHKです。素人ながらの発想なんですけど、集団接種をやる理由としてなんですけど、先ほど、数をより多く接種してもらうには個別接種だとおっしゃったと思うんですけど、先にそれをなさらないというのは、要は、個別をやるにはいろんな、人員とか手間とか移送方法だとか、そういうのが必要で、それが間に合わないから、ひとまず、よりやりやすい集団接種を先にやるという感じなんですかね。

【市長】 どちらを先にするというよりも、4月1日からというか、4月以降、高齢者のワクチン接種が国で始まることに合わせて、まず、集団接種も整えていくし、そして、今後、診療所においても準備を進めて、一日も早い形で進めていくということでありますので、どちらが先行するという話ではなく、両方準備を進めて、それに向かっていくという形になります。ただ、一気に、先ほど申し上げた600という形にはならないので、できるところから少し始めて、隣の診療所の先生がやっているということが、ああ、こういうふうにやればいいのかということが伝われば、かなり広がるのではないかなという考え方です。

【NHK】 どちらを優先されているかというのをお聞きしているわけじゃないんですけど、単純に集団接種のほうが体制が早く整うから先に始まるという認識でよかったですか。単純に疑問として、なぜ集団接種から始まっていくのかがよく分からないというか。個別のほうがいろいろ準備がかかっちゃうということだったら、すんなり分かるんですけど、そういうわけではないということですか。

【市長】 そういうことじゃないですね。なるべく、それこそ4月の早い段階で診療所の皆さんにも御対応いただけるのであれば速やかにやっていただきたいということなので、どちらが先という形でも、特にそういう形で決めているわけではありません。ただ、集団接種というのは、こういう体制で今準備を進めますということが、ある意味確定している部分なので、その情報を先にお出ししているということです。

補足ありますか。

【健康福祉局】 感染症対策課でございます。市長にお話しいただいたとおりに、川崎市ではベストミックスな体制を目指していくということでございまして、一方、ワクチンの特性を考えますと、個別接種で対応するときには、いろいろなスキームを構築しないといけないというところで、初動から多くの医療機関が対応できるかどうかというのは今後の調整状況だとは思っておりますけれども、4月以降、集団接種も走らせながら、個別接種できる部分につきましては、そこも同時でやっていただきながら、徐々にいろいろな支援の中で個別接種体制も拡充していければいいなと考えているところでございます。

以上でございます。

【岡野会長】 恐れ入ります、川崎市医師会の岡野でございます。実は、不確実な情報で我々がお話しするのは適当ではないと考えて今までは声を出しておりませんが、現実には、17日から国で約1万名の医療関係者先行接種が始まります。恐らく3月に入りますと、医療関係者のワクチン接種がスタートします。そうした場合に、

実際には、これは県の事業になりますので、今ここで想定している川崎市の7か所の集団接種場というのは存在しません。ですので、我々としては、基幹病院というのが、ある程度県から指定されているところがあるんですけども、では、そこへ川崎市内でもおおよそ13万人ほどいると言われている医療関係者、これが例えば、基幹病院にぞろぞろ、ぞろぞろと自分たちの診療時間を割いていくことが可能なのかと考えると、これは今、県としては、各医療機関の中でも、要するに、連携型医療機関として、ここで接種できる先生たち、それから、近隣の医療機関、医療関係者を集めて打ってくれる先生たち、この先生たち、手挙げをしてくださいという、そういうアンケートが来ております。それがちょうど締め切られたばかりですので、ここである程度、何か所ぐらいの医療機関が個別でスタートできるか、そして、今まさに25日までに、県では医療関係者のリストを県に上げてくださいというアンケートが来ておりますので、そこで実際にある程度の振り分けがまず見えてくるかと思えます。3月の中旬から、そういった医療機関の中で、個別医療機関が、ああ、できるじゃないかという状況がどんどん、どんどん見えてくれば、そうすれば、川崎市の市民に対する個別接種というの、ここで初めて円の中に参加できるのかなとは考えています。

我々として今一番懸念しているのは、まず配送ですね。我々、例えば、連携医療機関として、診療所が手挙げをしたところで、そこにどういう形で配送されるのか、どういう形で管理をして、そして、どういう形で、五進法でいく人数確保、この予約管理をしていくのか、この辺がしっかりと見えてくれば、今後、行政とも情報共有しながら役に立てていけるのではないかと考えています。

【司会】 そのほか、いかがでしょうか。

【読売】 読売新聞です。岡野会長と広瀬会長にお伺いしたいんですけども、今の話とかぶるかもしれないんですが、今示していただいた基本方針では、各区に1か所以上の接種会場設置とございます。今後増えていくかもしれないわけですけども、仮にこの各1か所、市民館や教育文化会館を会場で行っていくとして、医師の先生方は、ふだんの業務、例えば、午前中は御自身のところでの診療を終えて午後から行くとか、あるいは、その逆とか、あるいは、週に1回はずっと8時間出ずっぱりだったとか、どういう勤務体制をお考えなのかということと、あと、広瀬会長には、先ほど、気心の知れたというか、医師の先生と看護師同士で同じ会場に行くことを御想定、そこはそのまま単純に考えれば、同じ医療機関で勤務しているコンビの皆さん同士が行くという御想定でいいのかということと、人数的に看護師さんのほうがかなり必要になってくると思うんですけども、仮に各区に1か所だとして、看護師さんの人数

的には大体1会場に何人ぐらい御想定というのがもしあれば、お尋ねできればと思っております。

【岡野会長】 川崎市医師会の岡野でございます。先に答えさせていただきます。我々医師会は、川崎市には各区に休日診療所を設けておりますので、ここへ医師を派遣するというノウハウは我々としてはある程度持っているかなとは考えております。今回のこの行政の資料の中にもございますけれども、開設日時等というところには、日曜または土曜を含む週5日とございます。日曜日もしくは土曜の午後とかであれば、当然診療所の先生たちの中では、我々、休日診療所と同じように、診療のお休みの先生たちが出勤するということは、これは十分に可能であろうかと思えます。

それから、実際、皆さんも御存じのように、我々医療機関というのは比較的、土曜日は診療を行う関係で、平日に1日お休みを取っている医療機関は非常に多いと思えます。ですので、例えば私の診療所であれば木曜日が休診です。すぐ近隣の先生であれば水曜日が休診であります。週に1日の休診日、こういったところで、お互いにコーディネートしていけば、週に2日間の平日、そして週末の1日、少なくとも、こういう3日間は、通常の医師会の先生たちの中でも、ある程度協力者が得られるのではないかということで、先日もアンケートを取らせていただいておりますけれども、ある程度の数は見込まれてきているところでございます。

ただ、それでもやはり、いわゆる月曜、火曜、例えば金曜と、こういったところのフルのスケジュールを埋めていくのはなかなか難しいので、こういうところは今、川崎市医師会でも、勤務医の先生であるとか、場合によっては大学院であるとか、いろいろな先生たちに声をかけながら、そこをうまくコーディネートできればなという形でイメージをしております。

【広瀬会長】 御質問の集団会場における看護師の数でございますが、接種に2人、1月27日の訓練のときに、接種会場のところ、接種をする看護職が3人、1人は薬液を詰めるでしたが、その部分は、今後薬剤師さんということがありますので2人、それから、観察に1人、救護に1人ということで4人から5人の体制で訓練でした。このことは、看護協会が決めるというよりも、行政でどんなふうにかえるかということだと思いますので、行政の方でお答えいただければと思いますが。

【健康福祉局】 感染症対策課でございます。接種体制をどういう人数でやるのか、その中で医療従事者の方をどの程度配置するという想定によるのか、それによって各団体の皆様には御協力をいただきたいと思っております。せんだっての訓練におきましては、看護職の方が計5名、その中でいわゆる医療の部分で、直接接種に携わる

のが3名というような部分。それ以外の方は、接種以外のところでの役割というところがございまして、まずは、接種に関わる部分のようなところで、どの程度御協力いただけるのかを調整させていただきつつ、全体に必要な人数をその後にも調整させていただくというような形で、この間の訓練をベースとした人数に、またこの間、訓練の課題の振り返りで幾つか出ているような部分を反映させたような形で、今後、各団体の皆様と具体の調整をさせていただけたらと考えているところでございます。

以上でございます。

【司会】 そのほか、御質問いかがでしょうか。

【読売】 市長にお尋ねしたいんですけども、集団接種会場の運営（案）のところに、「会計年度任用職員の活用」とあります。これは離職した市民を中心に検討しておられるということでしたけれども、具体的にはどのような仕事内容になりそうでしょうか。

【市長】 集団接種の訓練などでも、医療職以外のところにも非常に人員が必要などころがあったと思います。そういったところの受付でありますとか、ちょっとチェックするような話だとか、そういった業務に当たっていただくことを考えています。

【読売】 大体何人程度というのはまだですか。規模的にはいかがでしょうか。

【市長】 30名程度と今考えています。

【読売】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、本議題については終了といたします。それでは、この後、最後に写真撮影に移らせていただきたいと思いますので、少々お待ちください。

（写真撮影）

【司会】 よろしいでしょうか。それでは、写真撮影のほう、終了とさせていただきます。ここで、御同席いただいた皆様は退室をされます。ありがとうございました。

また、ここで会場のレイアウト変更も行いますので、少々お待ちください。

《市政一般》

《川崎じもと応援券について》

【司会】 それでは、お待たせいたしました。続きまして、市政一般に関する質疑応答に入ります。進行につきまして、幹事社様、よろしくお願いいたします。

【朝日（幹事社）】 朝日新聞です。川崎じもと応援券のことでお伺いしたいんですけど、先ほど、第2弾の発行が発表されたんですが、すみません、細かいことなんですが、今回、プレミアム率が20%なのはなぜでしょうか。

【市長】 なかなか財政が厳しい中で、少しプレミアム率を落としてでも、なるべく多くの事業費というか、事業効果を発現させたいという思いから20%にして、そして発行総額を増やしていこうと、そういったもくろみでございます。

【朝日（幹事社）】 それから、申込み方法とか購入方法なんですが、前は1次と2次でなかなかはけなくてというか、3次でいきなり行列ができるような事態になったんですが、今回の場合は、これを拝見すると、やっぱり事前申込みというような形になっているようなんですが、今回も販売の仕方としては、前回の1次、2次のような形になるわけですか。

【市長】 あれ、たしか到着してから、締め切って、抽せんしてというふうな、かなり長い時間がかかりましたけども、今回はそれほど時間かからずにやっていきたいと思っております。今回、いわゆる対面販売みたいなものというのは、3次販売のときに、買いやすいというメリットがある一方で、やはりかなり行列をなしてしまうとか、あるいは公平性の観点からいかがかとかというお話だとか、何よりも密になってしまうということが一つ反省点としてもございまして、そうした意味で、なるべく公平に、それから、より多くの方にといい思いでこういった販売方法にさせていただきました。

【朝日（幹事社）】 あと、利用店舗とか業種で前回と今回で変わったものがありますか。

【市長】 いや、ございません。

《新型コロナウイルスワクチンについて》

【朝日（幹事社）】 ちょっと話がかわって恐縮なんですが、ワクチンに戻って恐縮なんですが、ほかの自治体の話で恐縮なんですけど、100%接種を目指すために、例えば百貨店の割引券とか、100%に誘導するような施策を取っている自治体はあるんですが、川崎市としてそういうような、100%を目指すというふうなお考えはありますか。

【市長】 いえ、そもそも、どこを目指すかって非常に難しい話なんですが、先ほどの原則論のとおり、希望する方全てにといい考え方でありまして、そもそも希望していらない方も中にはいることは事実だと思います。そのところに確実に早めにといいことでもありますけども、必ずしも100%を目指しているということではありません。どこが最低限度かという話という、最低、いわゆる集団免疫と言われる60%は確保しなければならないという思いはありますけども。

《行政財産の目的外使用許可等の不適切処理について》

【時事（幹事社）】 時事通信です。先週、行政財産の目的外使用許可に関する光熱水費の調査結果が相次いで発表されました。最初の病院局以外にも、幾つか不適切な事情が見られたわけですが、それについての受け止めをお願いします。

【市長】 井田病院のことを受けて、本当に類似の施設があるのかないのか、本当にどうなっているのかを全庁的にチェックしたということは、結果、残念ながら出てきてしまったことは非常に残念でありますし、遺憾なことだとは思っていますが、ただ、これを私自身は前向きに捉えていきたいと思っています。というのは、こういうことがあった、こういった一つの実績をちゃんと全部でチェックして、そして正しい方向に是正していくという取組の結果だと思っていますので、それぞれのおかしなところをしっかりと直していくということに、これから注力していきたいと思っています。

【時事（幹事社）】 幹事社から以上です。

《川崎じもと応援券について》

【東京】 東京新聞です。2点ほど質問がありまして、1つはじもと応援券の評価についてなんですけれども、今回、第2弾を出されるということは、やっぱり第1弾、今回の応援券について一定の効果があったという御判断、これから報告書とかも出るのかもしれないんですけれども、現状、応援券についてどういうふうに評価されているか、お伺いできますでしょうか。

【市長】 いろんな御意見あるんだとは思いますが、私としては、当初の目的であった、地元の厳しい状況にある中小企業を下支えするという、この目的に合致した効果が得られたものだとは思っています。特に一番多いのは、飲食店というところで使われたということでもありますし、現状、引き続き厳しい状況にありますので、こういった成果を踏まえて第2弾に踏み切ったということでございます。

【東京】 かなり、その消化率というか、使われている規模としても大きいという印象なんですか。

【市長】 全部使っていただくと113億円の効果ということでありますから、そういった意味では、買っていただいた方の御理解、御協力があって、プレミアムではない波及という意味では相当効果があったと思っています。また、いただいている声も、非常に幅広い業種で、利用可能、登録していただいたことによって、利用者にとっても非常に良かったという声はたくさん聞いています。

《川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例関係について》

【東京】 それと、もう一つ、このところ活発化している保守系団体の街宣活動のことなんですけれども、地域の方々が御心配されて、市にも要請、議会も回られている

ということなんですけれども、かつて、そういう意味ではデモが起きた地域でもありますし、そういう御心配されている地域の市民の方たちに、メッセージというか、思い、もし受け止め等がありましたらお伺いできますでしょうか。

【市長】 個別の街宣活動に対するコメントというのは、特に今までもしておりませんし、これからもコメントする気はないんですが、一部発言内容が、条例を理解されていないんじゃないかなと、あえて間違えているのか、間違った情報を発言されていることは遺憾だなとは思いますが。

【司会】 そのほか、いかがでしょうか。質問はよろしいでしょうか。

《中学生死亡事件について》

【神奈川】 神奈川新聞です。2月20日で川崎市の上村遼太さんが多摩川で殺害されてから6年になりますけれども、これまで川崎市で、こういった助けを求める子供の居場所づくりに向けて取り組んでこられたことがあれば教えていただきたいということが1つと、それから、再発防止に向けて、そういった居場所のない子供を助けるために、市として今後取り組んでいきたいことがあれば、市長から一言お伺いしたいんですが。

【市長】 6年前の上村君の事件というのは、私たち、忘れておりませんし、そして決して風化をさせてはいけない事件だと思っています。このことよっての、私たち、課題だとか反省点というのはたくさんありました。地域の皆さんと一緒に、どうやって子供たちの居場所をつくっていくかということに、本当にいろんな団体の皆さんに御協力いただいて、それこそ、川崎市が直接的にという形ではありませんけども、例えば、子供食堂とか、コミュニティーカフェみたいなことをやっていたりとか、あるいは、寺子屋がそうなるか分かりませんが、いろんなところで、家庭でも学校でもないところの居場所づくりに、いろんな方たちが携わっていただいたと思っていますし、また、いろんな情報を重ね合わせていこうという体制づくりというのは、学校関係者だけではなくて、いろんな地域の皆さんの御協力があって、かなり進んできた部分はあると思います。引き続き、どこかに居場所があって話ができるという環境づくりは、これからはしっかりと進めていきたいと思っていますし、それは、この事件だけではなくて、やはり誰もが、子供だけじゃなくて、高齢者であっても、障害者であっても、あるいはケアが必要ではない方にとっても、やはり全ての市民がそういった場所があることが大事ですので、地域包括ケアの取組を一層進めていきたいと思っています。

【神奈川】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

《東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の会長辞任について》

【読売】 読売新聞です。東京五輪の組織委員会の話なんですけれども、森会長が、女性蔑視発言を受けて辞任をなさいました。今、新会長探し、続いているわけなんですけれども、報道などで御案内の限りでも構わないんですが、川崎市でも多様性を認めていこうというメッセージを掲げている市長として、これをどのように御覧になっているかというのを一言お聞かせくださいますでしょうか。

【市長】 正直申し上げて、言葉のところが捉えると、私、その話を聞いたときに、近年、立場がある方の発言としては最も驚いたというか、ちょっとショックではありました。国民全員がそうであると同時に、やはり海外の皆さん、オリンピック・パラリンピックを開催する国からすると、海外に間違ったメッセージが伝わってしまうという意味で非常に残念という思いを持ちました。

【読売】 会長にどんな方がなってほしいとかってお考えはございますでしょうか。

【市長】 私は報道でしかあれですけど、やはりオリンピック・パラリンピックに何らかの形で関わった方じゃないとなかなか難しいというのは、誰が見てもそうだろうなと思うので、その中の議論はされるんだと思いますけど、残念ながら、こういう形での交代劇になってしまったので、そのプロセスを含めて透明性の高い形でやられることが、やはり国内外にとっても大事なのではないかとは思っております。

【読売】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか、いかがでしょうか。御質問、よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、本日の記者会見を終了といたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355